

北九州市感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第20週(令和7年5月12日～令和7年5月18日)

<発生動向>

第20週の百日咳の報告が13件(うち0歳1件)あり、累計76件(うち0歳8件)となりました。家庭内での感染が疑われるケースも報告されていますので、家庭内でも「咳エチケット」を心がけましょう。詳しくは別紙1をご参照ください。

なお、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が急激に増加し、定点当たり報告数が8.23となり、従前の警報レベル開始基準値の8を超えました。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による感染症(咽頭炎、扁桃炎、上気道炎、発疹を伴う猩紅熱等)で小児を中心によく見られます。喉の痛みがひどい場合は、水分補給を心がけましょう。詳しくは別紙2をご参照ください。

■ 全数把握疾患報告

病名	北九州市		福岡県		全国(前週)	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	5	56	13	262	153	4,635
侵襲性肺炎球菌感染症	1	15	8	70	69	1,762
梅毒	5	53	19	298	124	4,755
百日咳	13	76	106	1,012	1,792	16,475

■ 定点把握疾患報告数

病名	北九州市			福岡県		全国(前週)	
	報告数	定点当たり	定点当たり(前週)	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	15	0.65	1.22	85	0.70	3,604	0.94
インフルエンザ	39	1.70	2.09	164	1.34	2,580	0.67
急性呼吸器感染症	1167	50.74	37.48	6,297	51.61	182,709	47.63
RSウイルス感染症	10	0.77	0.31	28	0.40	710	0.30
咽頭結膜熱	11	0.85	0.31	68	0.97	934	0.40
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	107	8.23	3.92	322	4.60	4,667	1.98
感染性胃腸炎	135	10.38	10.69	694	9.91	13,636	5.78
水痘	1	0.08	0.08	40	0.57	1,190	0.50
手足口病	6	0.46	0.08	8	0.11	189	0.08
伝染性紅斑	24	1.85	0.54	191	2.73	2,680	1.14
突発性発しん	12	0.92	0.31	45	0.64	706	0.30
ヘルパンギーナ	2	0.15	0.00	8	0.11	62	0.03
流行性耳下腺炎	2	0.15	0.00	9	0.13	140	0.06
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	27	0.04
流行性角結膜炎	2	0.33	0.00	10	0.38	523	0.75
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	1	0.07	8	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	9	0.02
マイコプラズマ肺炎	1	0.50	0.00	2	0.13	158	0.33
クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	0	0.00	2	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	1.00	5.50	8	0.53	106	0.22

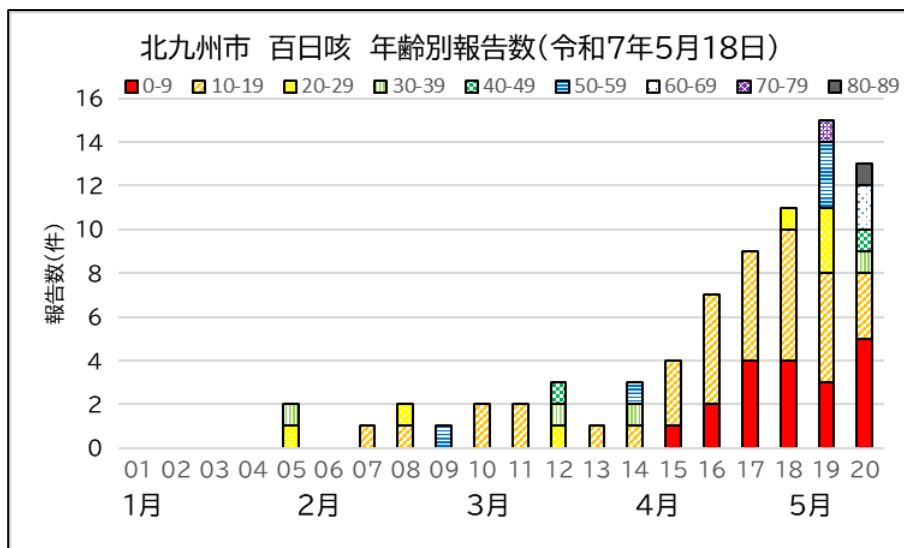
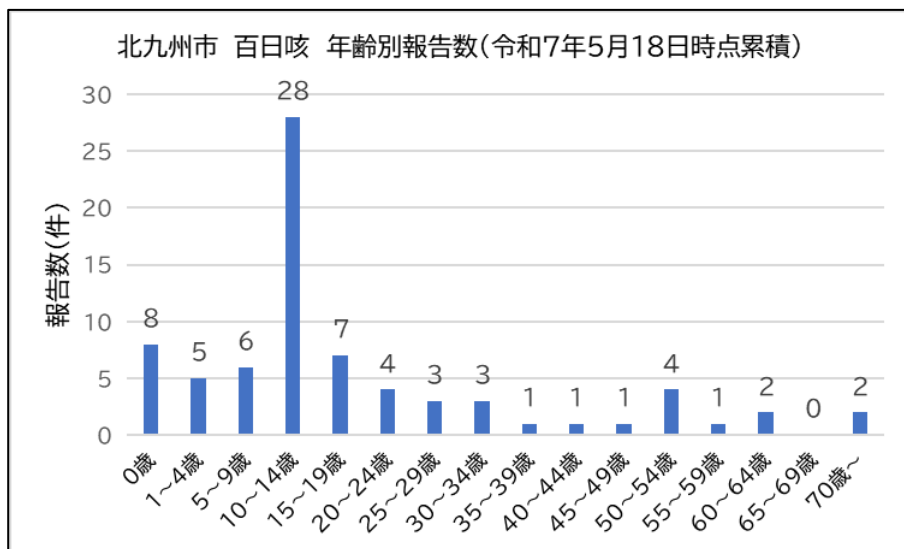
※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。

※全国のデータについては、更新時期が北九州市および福岡県の翌週となるため、前週の情報を掲載しています。

○北九州市感染症情報ホームページ(<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18300149.html>)もご参照下さい。

百日咳の報告が続いています

百日咳の報告数が続いています。5月18日時点で累計76件となり、10歳から14歳が最多で28件、重症化リスクの高い0歳は8件となりました。第19週、第20週と成人の報告も増えています。成人では軽症で診断が見のがされやすいものの、菌の排出があるため、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。



百日咳の感染対策は、「予防接種」「咳エチケット」「手洗い」などです。定期接種の百日咳ワクチンを受けた人からの報告もあります。家庭内での感染が疑われるケースも報告されていますので、家庭内でも「咳エチケット」を心がけましょう。

令和7年5月22日

～注意情報～

《A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数が警報レベルを超えました！》

令和7年第20週(5月12日～5月18日)のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点医療機関あたりの患者報告数が8.23となり、警報レベルの開始基準である「8」を超え、急増しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたりの報告数(令和7年第16週～第20週)

	16週	17週	18週	19週	20週
	4/14～4/20	4/21～4/27	4/28～5/4	5/5～5/11	5/12～5/18
北九州市	4.69	4.77	3.92	3.92	8.23
福岡県	3.70	3.81	2.80	2.93	4.6
全国	2.64	2.83	2.29	1.98	集計中

※ 定点当たりの報告数とは、定点医療機関(北九州市では13医療機関)での1週間ごとの報告数を定点医療機関数で割った値です。

※ 警報・注意報は、流行状況の把握が必要な疾病について、国が保健所ごとの報告数を用いて検討・設計しています。2025年4月7日から定点医療機関数に変更となりましたが、国は、データを蓄積後に、警報・注意報の運用を検討するとしています。

このため、現時点の患者報告数に従前の警報・注意報を直ちに当てはめることはできませんが、福岡県と同様に従前の基準値を用いて運用することとします。

➤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群β溶血性レンサ球菌(*Streptococcus pyogenes*)を病原体とする感染症です。学童に多く、冬季と、春から初夏の、2つの流行のピークがあります。家庭や学校での集団感染が多いとされています。

➤ 症状

潜伏期間は2から5日であり、発熱、咽頭痛、倦怠感、嘔吐などの症状が出ます。特徴的な紅斑やいちご舌、落屑がみられることや、急性糸球体腎炎やリウマチ熱などの合併症がみられることもあります。

➤ 感染経路

飛沫感染



感染した人の咳やくしゃみなどの飛沫と一緒に放出された細菌を口や鼻から吸いこみ感染

接触感染



細菌が付着したドアノブ等を触れた手で、鼻や口、目などを触って感染

(イラスト出典:政府広報オンライン)

➤ 感染対策

患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、手洗いや咳エチケットが有効です。現時点で承認されたワクチンはありません。

➤ 治療

抗菌薬です。腎炎などの合併症を起こすことがあるため、主治医に指示された期間、薬を飲みきりましょう。